

経営に生かすアカウンティング感覚

経営に生かすアカウンティング感覚

I. 財務3表の体系図を理解する

企業の経営幹部に自己啓発のテーマを尋ねると、「計数に強くなる」「数字で判断できる能力を身に付ける」など、アカウンティング（会計）に関するものが少なくない。そこで習熟レベルを聞いてみると、「貸借対照表という名称は聞いたことがあるけれど…内容は分からない」「損益計算書はよく耳にするが…」「キャッシュフロー？ 聞いたことがない」など、アカウンティングが日常業務とかけ離れた存在であることに気付かされる。

本稿は、そのようなビジネスパーソンに向け、「経営に生かすアカウンティング感覚」という切り口で解説していく。数字やアカウンティングは、「繰り返し学び、使ってみる」ことが習得への早道だ。理解しづらいところがあっても、読み続けることをやめてしまうと、その時点で成長は止まる。ぜひ、根気強くお付き合いをいただきたい。

1. 財務3表の基本構造

まず大まかに、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の構造を説明しよう。一般的に、貸借対照表は「B/S（バランスシート）」、損益計算書は「P/L（プロフィット&ロス・ステートメント）」、キャッシュフロー計算書は頭文字から「C/F」と呼ばれる。これらの3つを合わせて、「財務3表」と総称する。

次に構造を見てみよう。貸借対照表を最もシンプルな形で示すと、【図表1】の通りとなる。

【図表1】貸借対照表の構造

資 産	負債 (他人から調達)
	純資産 (自分で調達)
合計 (総資産)	合計 (総資本)

「資産」は、会社が持つプラスの要素（項目）、「負債」は会社が持つマイナスの要素（項目）と考えていただきたい。その資産から負債を差し引いたものが「純資産」であり、会社の正味

サンプルレポート

本レポートは、サクセスネットで公開している
ビジネスレポートの一部を公開したサンプルです。
サクセスネットサイトにログインした後、全文を
閲覧することができます。